

令和5年度オーガニックビレッジ全国集会
～コウノトリ翔ける郷で取組む
環境創造型農業の推進～

2024年1月15日(月)

兵庫県豊岡市コウノトリ共生部 部長 坂本成彦



来日岳 (567m) より豊岡盆地を望む

豊岡市の概要

人口:76,586人
(2023.12.31現在)

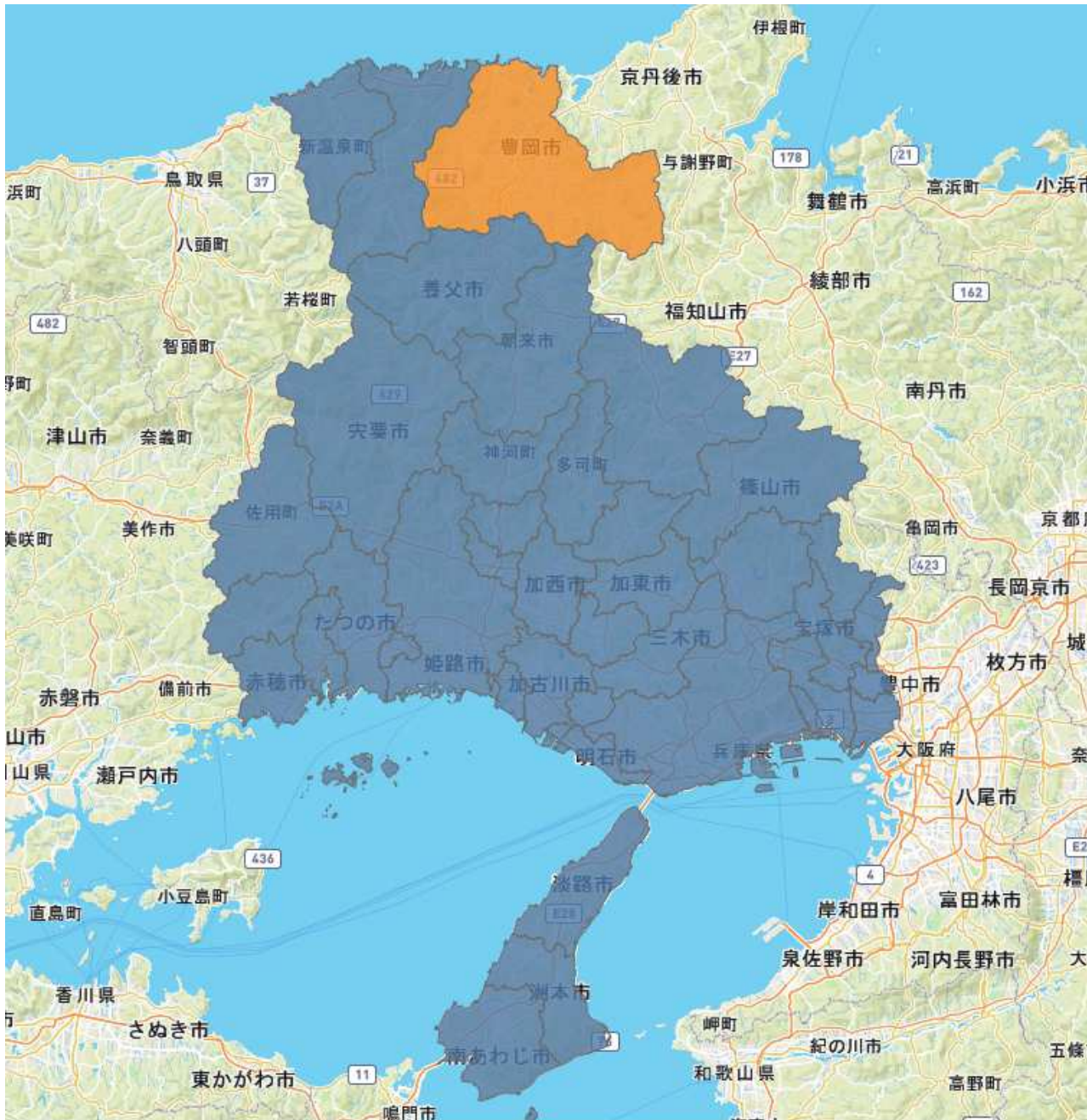
世帯数:33,770世帯
(2023.12.31現在)

面積:697.55km²(県内最大)
>東京23区:622km²

うち山林
553.86km²
(森林率79.4%)

広がり:東西38.8km
南北32.2km

標高:最高1,074.4m(蘓武岳)
最低 0.0m





豊岡市での有機農業拡大のきっかけは、「コウノトリの野生復帰」

写真提供：神戸新聞社



生息環境の悪化により絶滅へと向かうコウノトリ。国内最後の生息地・豊岡での保護活動もむなしく、1971年に日本の空から姿を消した



絶滅に先立つ1965年 人工飼育開始



人工飼育の開始から40年、2005年にコウノトリを野外放鳥



写真提供 神戸新聞社

2006年

コウノトリを復活させるために、
最も変わらなければならなかったのが

農業



カエド



カエド



カエド



フナ



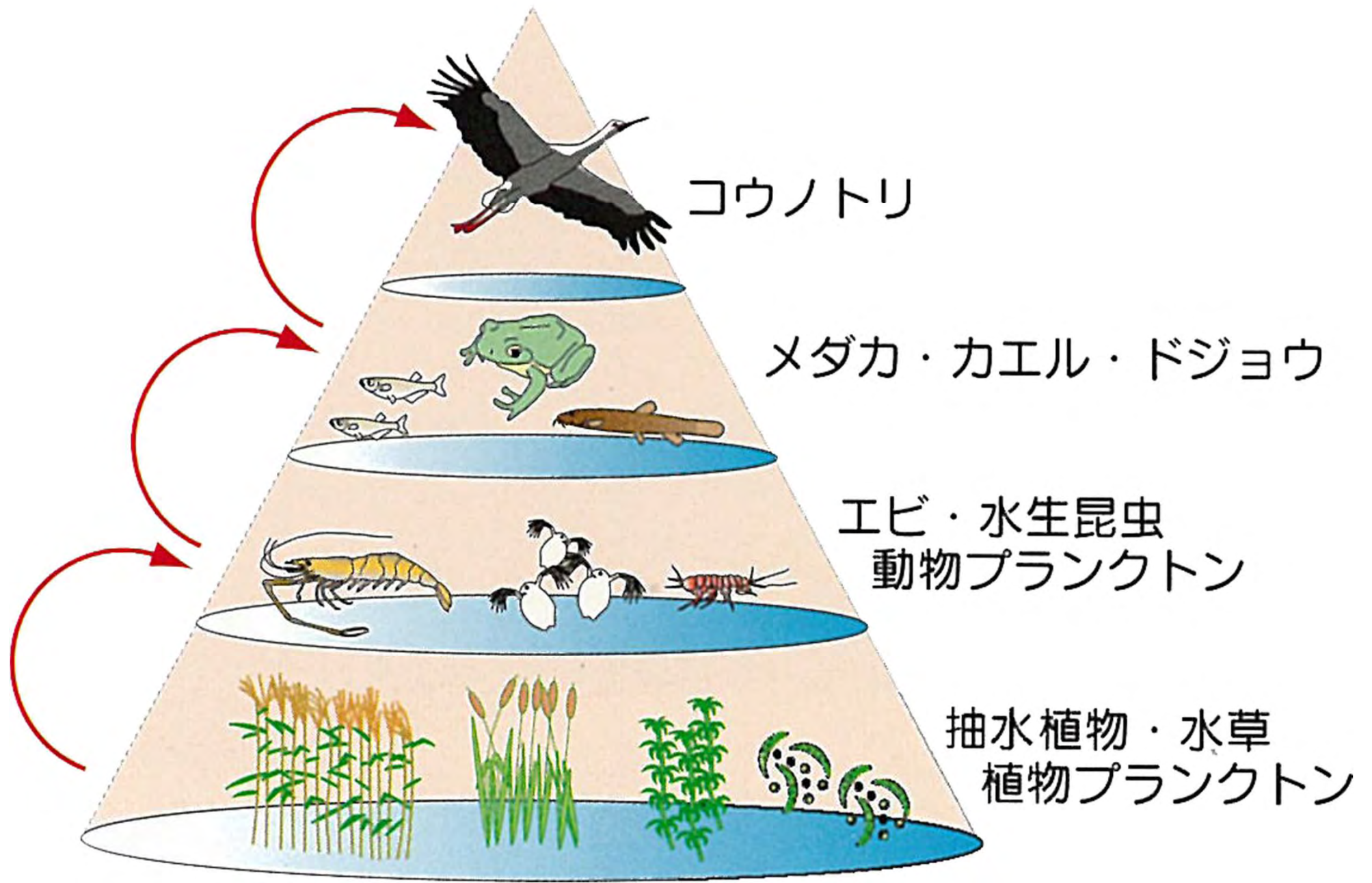
ウシガエル



トンボ



ナマズ



生息の決め手となるのは「田んぼ」の生態系

「生きものを増やす」という明確な意思を持った米作り



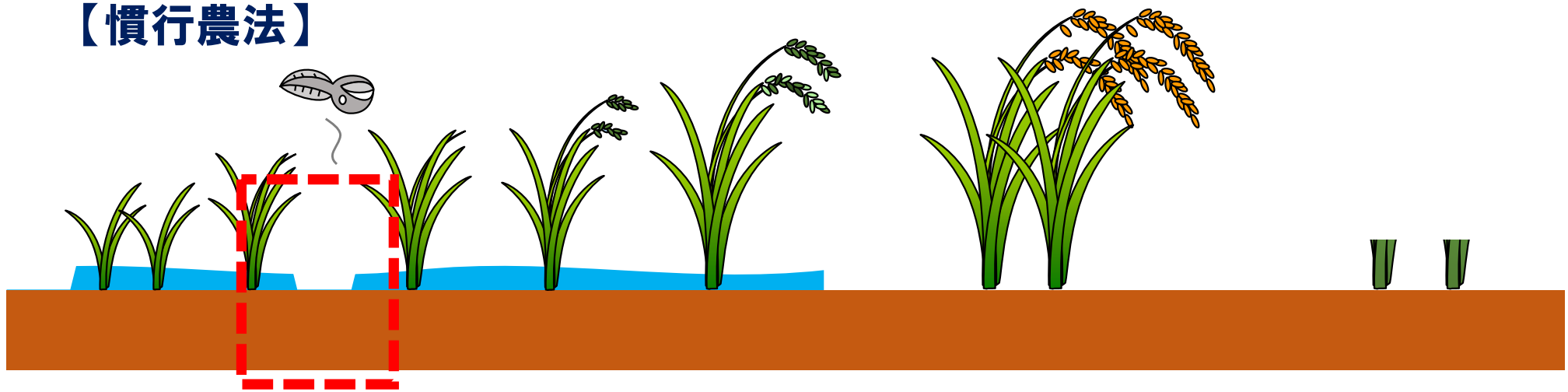
2005年、おいしいお米とたくさんの生きものを同時に育む
「コウノトリ育む農法」として体系化

「コウノトリ育む農法」の栽培要件

区分		無農薬	減農薬
苗づくり	種子消毒	お湯	
	殺虫剤	不使用	
栽培	殺虫剤	不使用	
	除草剤	不使用	75%削減
	化学肥料	不使用	
その他	あぜの除草	除草剤の使用禁止	
	水管理	中干延期 冬みず田んぼ、早期湛水	

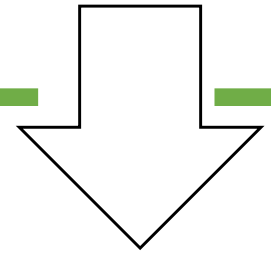
※「コウノトリ育むお米 栽培暦」より

【慣行農法】

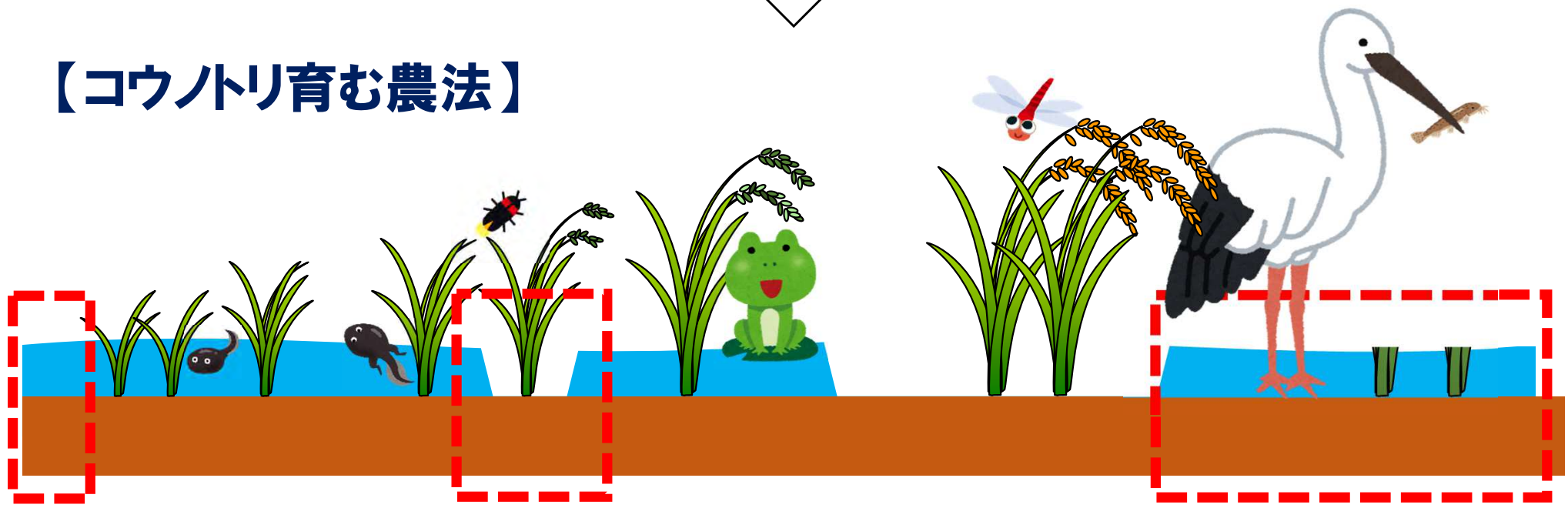


中干し

春 夏 秋 冬



【コウノトリ育む農法】



早期湛水

中干し延期

冬期湛水



冬期湛水田でアカガエルが産卵



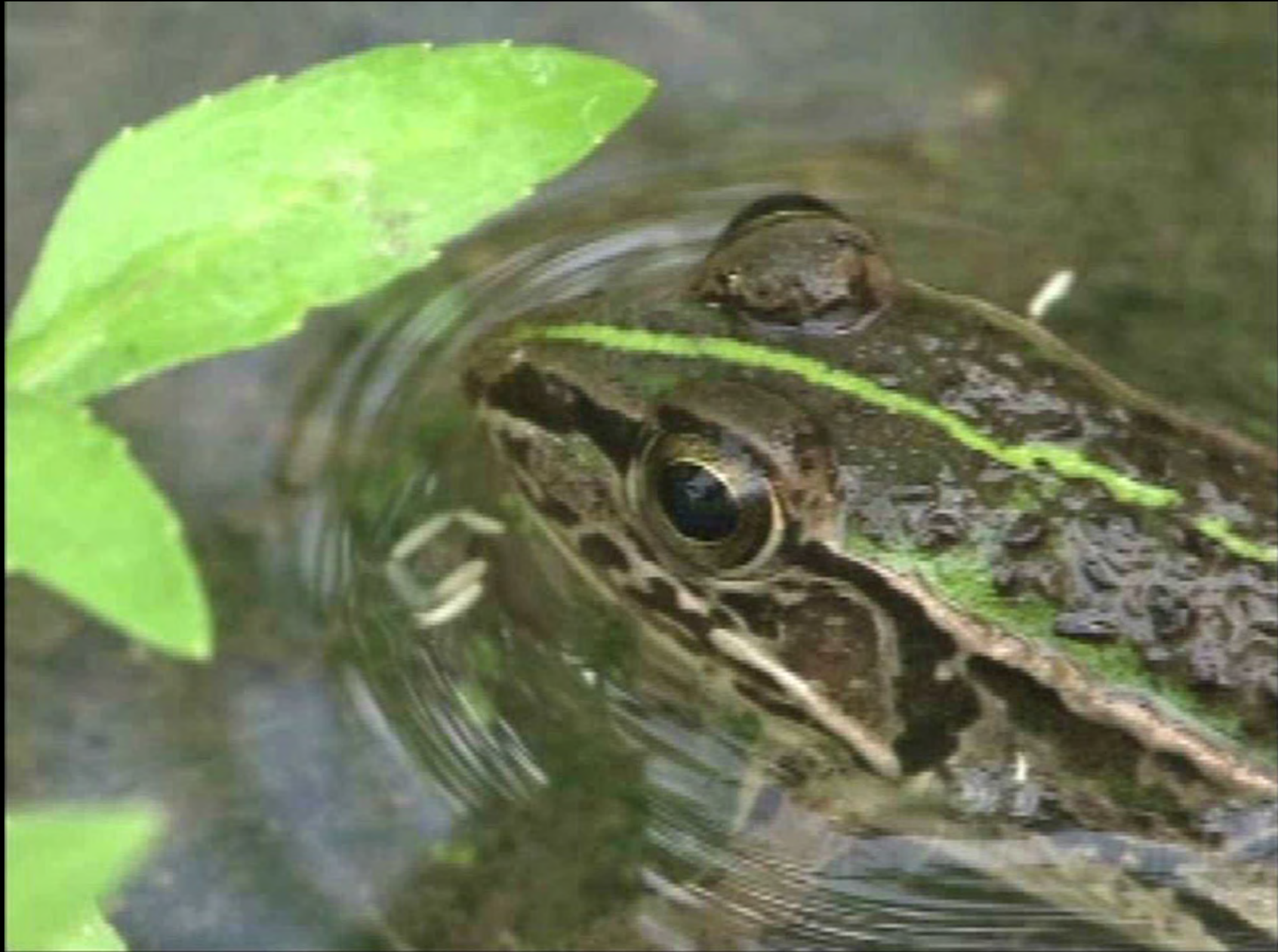
中干し延期でオタマジャクシがカエルに



ヤゴやトンボもいっぱい

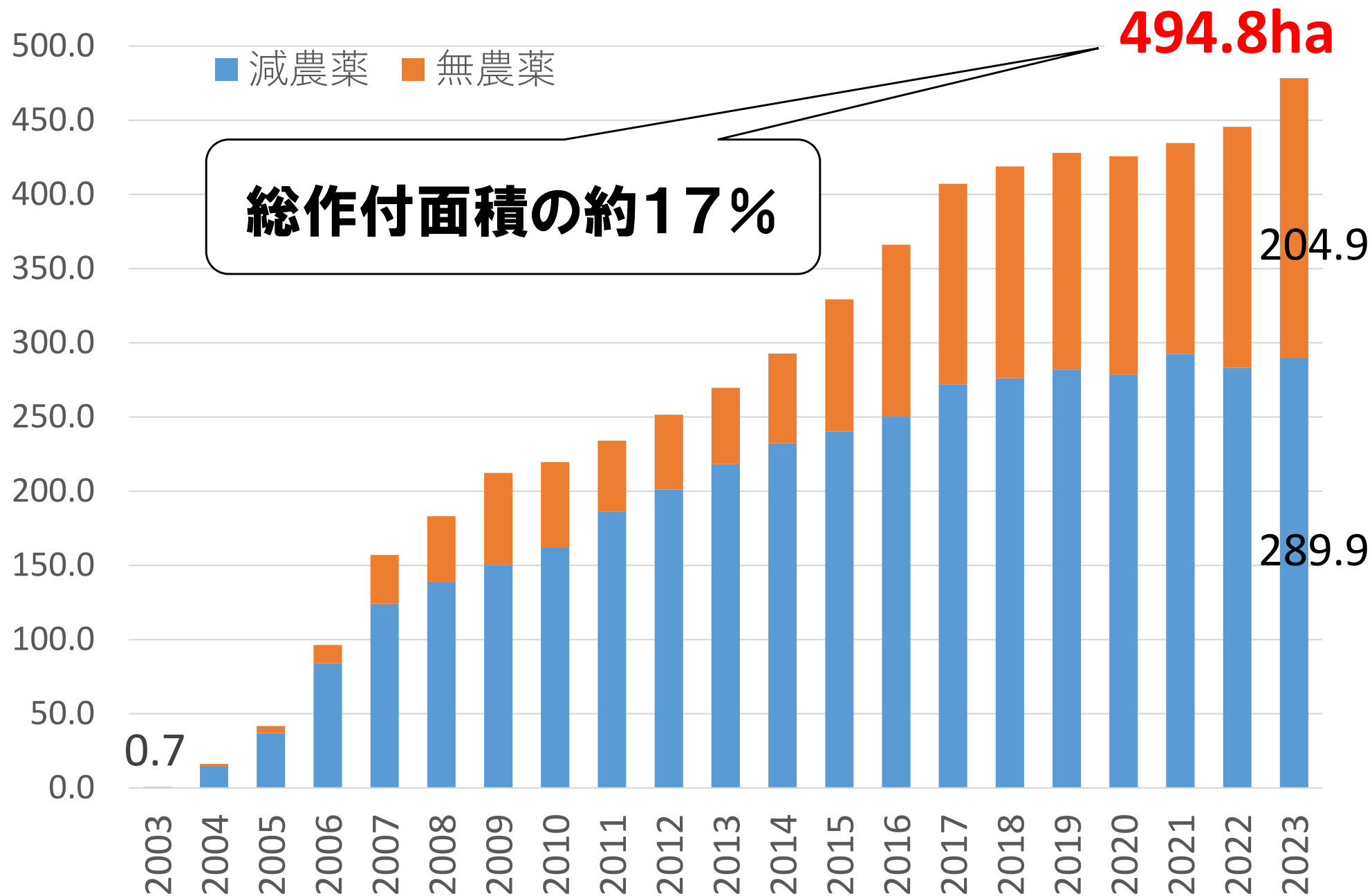


クモの巣がビッシリ

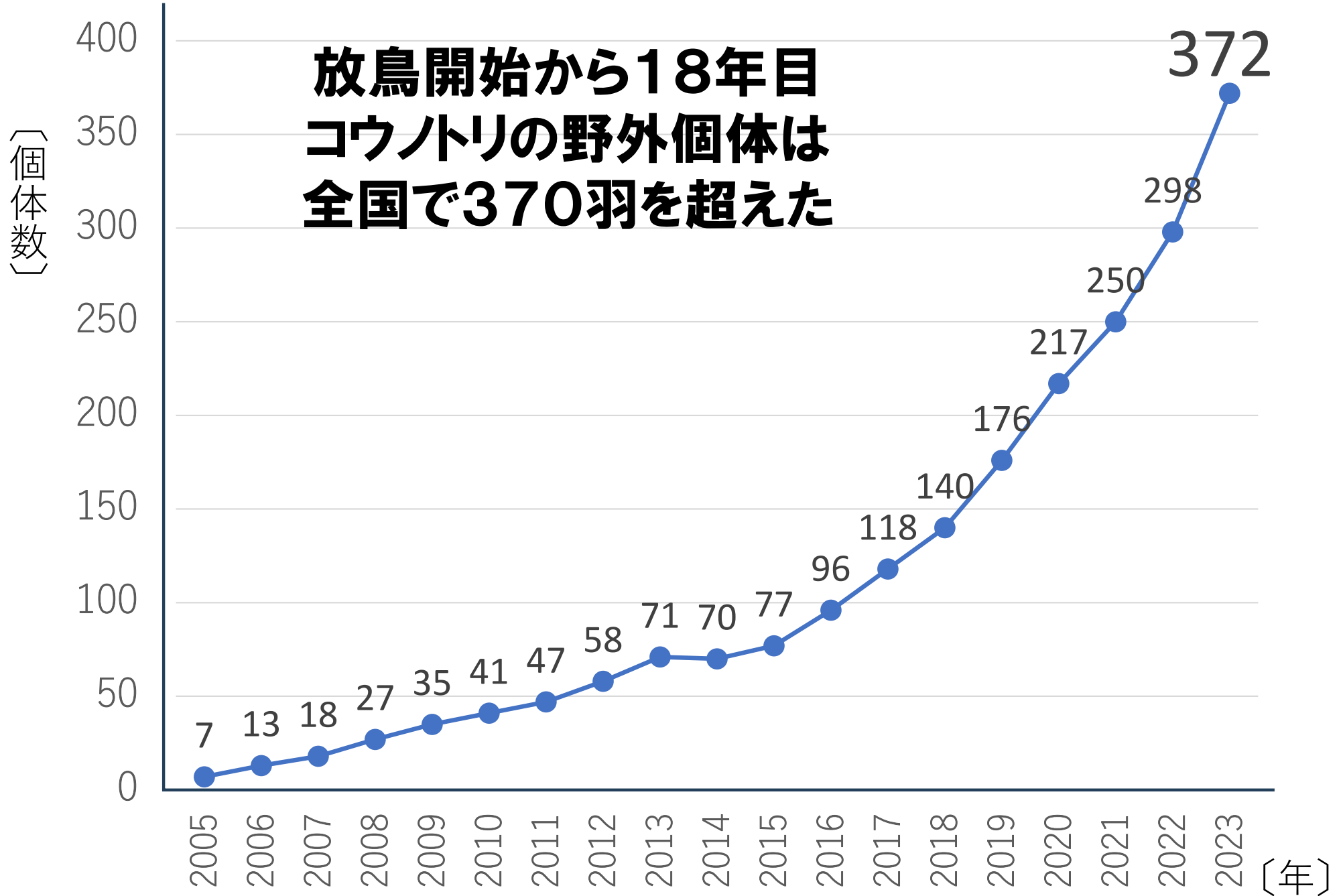


NHKスペシャル「コウノトリがよみがえる里」から

「コウノトリ育む農法」水稲作付面積の推移



**放鳥開始から18年目
コウノリの野外個体は
全国で370羽を超えた**

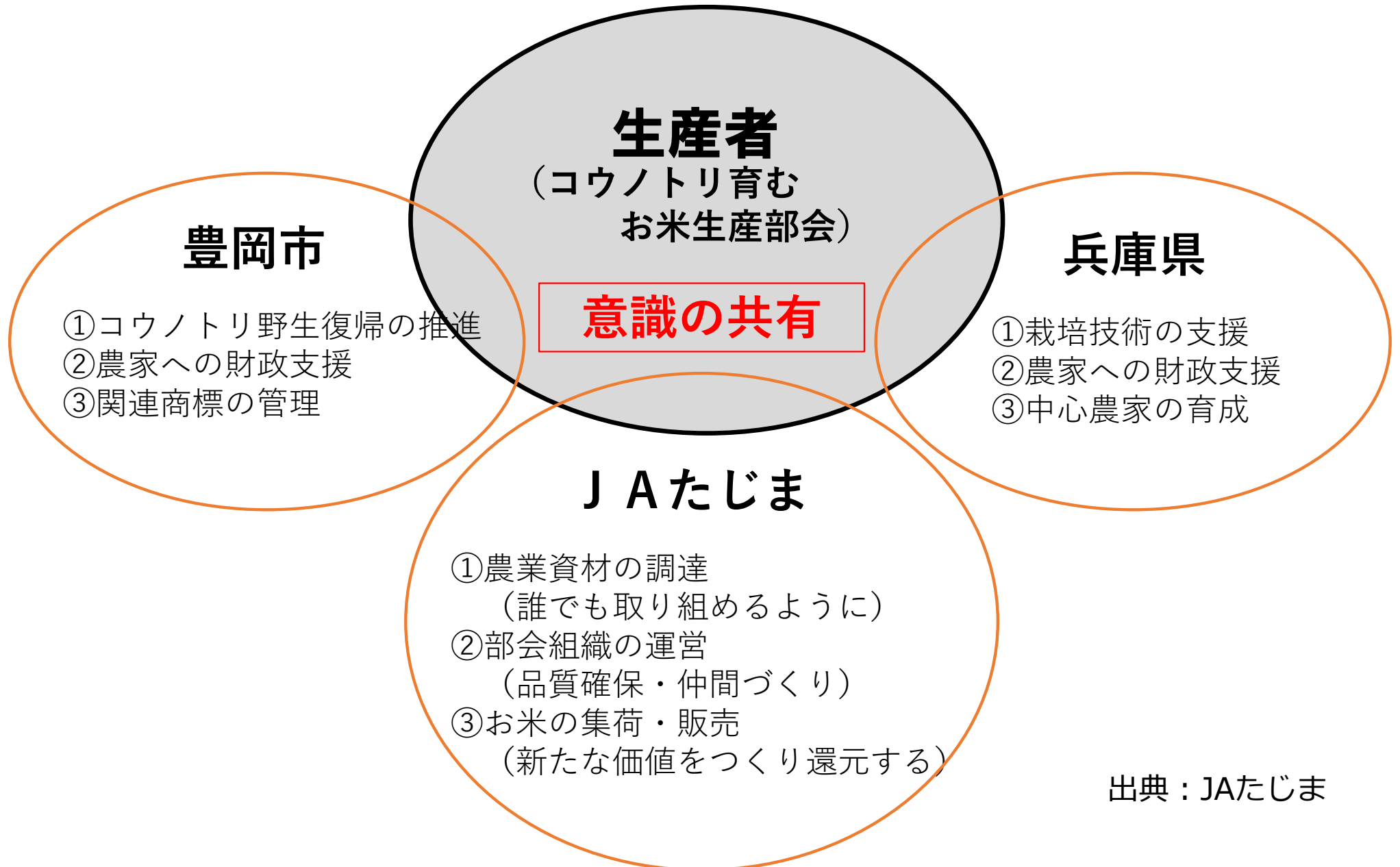


「コウノトリ育む農法」

拡大のために

- 1 推進体制
- 2 経済性
- 3 栽培技術
- 4 モチベーション

三位一体の普及・推進体制



出典：JAたじま

高値買取＋販売先の確保



主な販売先

- 生協
- スーパー（量販店）
- 百貨店
- 米穀店
- ネット販売 など



出典：JAたじま

省力化に向けた取組み



2013年

「ポット成苗＋専用除草機」を使用した栽培技術協定の締結

『みのる産業＋豊岡市＋兵庫県＋JAたじま』

2017～2019にかけて、成苗用田植機＋乗用除草機の導入支援
農家数：19件 田植機：10台 除草機：18台 導入



ポット成苗用田植機(8条)



乗用除草機



豊岡市スマート農業プロジェクト

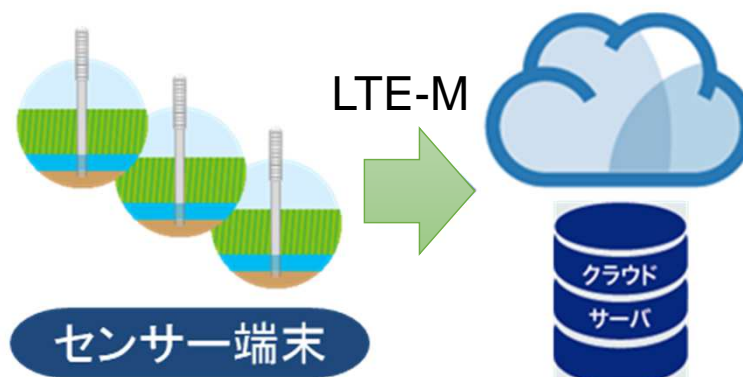
2016年9月21日
KDDI と包括協定



地域課題の解決



2018年5月31日
水田センサーによる
実証事業をスタート



水位データ



スマホ・タブレットで
水位・水温・地温を
リアルタイムチェック
水管理の省力化に！

OUTSIDE		app.miharas.jp		
	長谷D7-3	水位 6.9cm	水温 20.0°C	地温 19.6°C
	長谷D13-4	水位 10.9cm	水温 19.6°C	地温 19.7°C
	長谷D14-5	水位 5.9cm	水温 19.9°C	地温 19.7°C
	長谷D15-6	水位 7.0cm	水温 19.4°C	地温 19.4°C
	長谷D16-7	水位 7.8cm	水温 19.8°C	地温 19.5°C
	長谷D17-8	水位	水温	地温

2023.4 オーガニックビレッジ宣言



豊岡市では、一度は絶滅したコウノトリを人里に帰すプロジェクトに、まちをあげて取り組んでいます。半世紀以上に及び関係者の努力により、今や野外のコウノトリは300羽を超えるまでになりました。

その取り組みの一つとして、コウノトリも住める豊かな環境は、私たちにとっても豊かな環境だと信じて、有機農業や環境創造型農業を推進し、農薬に頼らない「コウノトリ育む農法」による米づくりを進めてきました。

このまちの次代を担う子どもたちは、大空を舞うコウノトリや「農業」を通じて人と生きものとの共生を学んでいます。

この取り組みをさらに深めていくため、子どもたちが食べる学校給食用米のすべてに有機米を使用し、有機野菜も順次提供していくことで、「食」を通じた地域ぐるみでの有機農業や環境創造型農業をさらに推進することを目指し、ここに、「オーガニックビレッジ」を宣言します。



2023年4月28日

豊岡市長 関貫久仁郎



2023年4月28日オーガニックビレッジ宣言式

豊岡市長 関貫久仁郎(中央)

たじま農業協同組合代表理事組合長

太田垣哲男氏(左)

兵庫県豊岡農林水産振興事務所所長

堀川道信氏(右)

2016.4から、週5回コウノトリ米（減農薬）使用



**90t／年間 の全量を
無農薬米に転換する！
（2026年産目標）**



無農薬米の稲刈りを、子どもたちと一緒に



豊岡ふるさと学習ガイドブック

豊岡市



豊岡ふるさと学習
TOYOOKA FURUSATO GAKUSHŪ
Guide Book
ガイドブック

豊岡市



農家
なりた 成田 市雄 さん

続けていく
コウノトリ育む農法を

コウノトリ育む農法に取り組むことを決めたのはなぜですか？

今から10年以上前「コウノトリのために無農薬でお米を作ってほしい。」と行政からお願いされたときには、「そんな無理だよ。」と思いました。もしも失敗すると、私のような農業だけを仕事にしている人は収入がなくなり、家族が生活できなくなります。農薬や化学肥料を使えば、だれでも簡単にお米がたくさん収穫できる、と教えら

れてきたのですから。

それでも、この依頼をきっかけにコウノトリのことを勉強すると、田んぼの生きものを食べたコウノトリの体に農薬の毒がたまって中毒になり、卵を産んでもヒナがかえる力がなくなったことを知りました。そして、自分の子どもたちの未来のことを考えました。「同じことが人でもおこれば、自分が作ったお米のせいで、たくさんの人を不幸にってしまうかもしれない。」考えただけでいやでした。食べても絶対に病気になるまいと、胸を張って言える米を作り、その結果、コウノトリも田んぼでくらすたらええな、と思いました。

コウノトリ育む農法に取り組んでよかったこと、大変だったことを教えてください。

日本のお米作りは、いまから3000年ほど前にはじまり、ずっと無農薬の米作りが続いていたのに、つい80年前から農薬や化学肥料を使い始め、あっという間に使うことが普通になりました。裏返せば、昔は無農薬で米を作っていたんだから、農薬を使わなくても米作りはできるはずですよ。どうすれば豊岡で無農薬の米を効率よく作れるのかを実験していくと、色々なことに気づきました。草を枯らす農薬を入れると、稲も草の仲間だから弱ってしまう、だから化学肥料が必要になること。困った雑草は、トラクターで浅くかき回せばそのまま枯れることなど。そして、私以外にも色々な人の実験結果をもとに、農家も行政もJAも大学の先生も協力し合ってコウノトリ育む農法の教科書を作り、取り組みやすくしました。私にとっては、手間は普通の農法と一緒くらい。しかも農薬代がかからないし、この取組に共感し、応援してくれる人が高く買ってくれるから儲かる。なによりも、人の体に安全で安心。全部いいでしょう？だから、豊岡の田んぼが将来、全部無農薬の田んぼになって、安全なお米を地元みんなが食べられるようになる、いいのになあ。

インタビュー



農家
なりた 成田
いちお 市雄 さん

コウノトリ育む農法を
続けていく

今から10年以上前「コウノトリのために無農薬でお米を作ってほしい。」と行政からお願いされたときには、「そんなの無理だよ。」と思いました。

もしも失敗すると、私のような農業だけを仕事にしている人は収入がなくなり、家族が生活できなくなります。

農薬や化学肥料を使えば、だれでも簡単にお米がたくさん収穫できる、と教えられてきたのですから。

それでも、この依頼をきっかけにコウノトリのことを勉強すると、田んぼの生きものを食べたコウノトリの体に農薬の毒がたまって中毒になり、卵を産んでもヒナがかえる力がなくなったことを知りました。

そして、自分の子どもたちの未来のことを考えました。「同じことが人でもおこれば、自分が作ったお米のせいで、たくさんの人を不幸にってしまうかもしれない。」考えただけでいやでした。食べても絶対に病気にならないと、胸を張って言える米を作り、その結果、コウノトリも田んぼで暮らせたらええな、と思いました。

どうすれば豊岡で無農薬の米を効率よく作れるのかを実験していくと、色々なことに気づきました。

草を枯らす農薬を入れると、稲も草の仲間だから弱ってしまう、だから化学肥料が必要になること。困った雑草は、トラクターで浅くかき回せばそのまま枯れることなど。

そして、私以外にも色々な人の実験結果をもとに、農家も行政もJAも大学の先生も協力し合ってコウノトリ育む農法の教科書を作り、取り組みやすくしました。

私にとっては、手間は普通の農法と一緒に
くらい。しかも農薬代がかからないし、
この取組に共感し、応援してくれる人が
高く買ってくれるから儲かる。なによりも、
人の体に安全で安心。

全部いいでしょう？

だから、豊岡の田んぼが将来、全部無農
薬の田んぼになって、安全なお米を地元
のみんなが食べられるようになると、いい
のになあ。



ご清聴ありがとうございました

これからも『豊岡グッドローカル農業』
を育て、広げていきます！

